

料金別納
郵便



上田市議会議員 上田大好き 齊藤達也

たっさんかい

達参会ニュース

2022年（令和4年）第19号



発行人 達参会（齊藤達也後援会）上田市中心2-20-12 討議資料
TEL&FAX 0268-75-0175 E-mail : t.saito.koenkai@gmail.com

7月末からの連日の大雨により、市街地でも住宅地への浸水や汚水があふれるなどの被害があり、また、矢出沢川の護岸の一部崩落による市道の通行止めもありました。所属する第三分団での警戒や土嚢づくりの出動のほか、地域の自治会長さんや市役所の職員さんと現場確認や聞き取りにまわりましたが、今回は短時間で市街地の排水能力を超えた多量の雨が降ったと推測され、従来とは異なる対策の必要性を感じています。一方で、災害時には公助にも限界があり、お一人お一人の意識と備えが重要となります。例えば、市では、自治会からの要望により、自治会に対して砂及び土嚢袋を支給しておりますので、ご入用の方は自治会経由で市にご依頼頂きますようお願い致します。



問 発達障害の診断・判定を受けている児童生徒数とその割合の推移はどうか。そのうち、特別支援学級に在籍している児童生徒数とその割合はどうか。

答（峯村教育長）平成29年度には、小中合わせて693人、5.5%であった。令和3年度では766人、6.6%となっており、人数で73人、率で1.1ポイント増えている。そのうち、特別支援学級に在籍する児童生徒数と在籍率は、平成29年度、338人で48.8%、令和3年度は440人で57.4%となっており、102人の増、率は8.7ポイント増えている。

問 特別支援学級のうち自閉症、情緒障害児学級について、年度途中から通級を開始するケースが少なくないが、受入体制はどうか。

答（峯村教育長）昨年度、年度途中で入級した件数は90件。年度途中での入級件数が多いこともあり、次年度に向け県からの加配の増員について要望している。

問 特別支援教育支援員は、どのように充実化を図っているのか。

答（峯村教育長）全小中学校に計66人の支援員を配置している。5年前より5人増やし、勤務時間数も約3,500時間増やすなど、支援の充実化を図っている。

問 通級指導教室のうち「ことばの教室」は中学校に設置されていないが、支援をどう考えるか。

答（峯村教育長）小学校から中学校への移行支援会議において、支援が必要な児童についての情報共有を図りながら引継ぎが行われており、小学校から継続して支援を行っている中学生が9人いる。市としては、中学校の「ことばの教室」の開設を県に要望していくとともに、生徒や保護者の悩みを受け止め、適切な支援が途切れることなく行われるよう取り組んでいく。

問 不登校の傾向がある障害のある児童生徒は放課後等デイサービスを利用できるのか。

答（堀内福祉部長）利用は可能だが、学校や教育相談所などの様々な関係機関と連携を図りながら、対応させて頂くことが重要である。